

## 歴史と街づくり活動の経緯

### 1. まちの成り立ち

町は福岡市早良区の百道海岸を埋め立て造成された“シーサイドももち”で唯一の戸建て住宅地として開発された。ウォーターフロントの環境と近くには福岡市のランドマークである福岡タワーや市立総合図書館、市立博物館があり、地方テレビ局も2局の本社が設置されるという副都心としての機能を持つ地域であり、隣接の同様に埋め立て造成された地行浜には国立病院機構九州医療センターや現在のヤフードーム、ヒルトンシーホークホテルが建設されている。

1988年開催されたよかトピア博覧会の戸建て住宅フェアを契機に、主として積水ハウスによる住宅建設が宮脇檀により作成されたプランで計画的に順次進められた。こうして町が形成されて、1990年町内会規約が制定され百道浜4丁目戸建地区町内会が発足した。また同時に戸建て住宅にふさわしい多様な個性とゆとりのあるまちなみの形成と維持を図るため、シーサイドももちアーバンデザインマニュアルや宮脇檀プランによる建築協定や緑化協定も制定され、統一感のある建物の形や色また外構計画によりまとまりの感じられるまちなみと、豊かな生垣や樹木によりうるおいある良好な生活空間が目指された。

シーサイドももちアーバンデザインマニュアルの戸建住宅地区の基準によれば、敷地の間口は最低12m以上、敷地規模は200m<sup>2</sup>以上とし再分割を禁止している。

### 2. 町内会活動の歴史

新規住民による町内会が結成されたが、町民としての連携を深めるため多くの町内行事が設定された。町内会定時総会は勿論だが総会後の役員引継ぎ会、年3回の町内一斉清掃や夏季の子供を中心とした懇親会、年2回の茶話会、敬老の日行事、大人のための新年会、時には町内ゴルフ大会などが実施された。この他校区の各種委員会への参加や校区の夏祭り大会、餅つき大会等にも町内会で取り組んで来た。

住宅建設が終えたブロックから協定が締結され、まず1989年シーサイドももち・百道浜4丁目A住宅地区で建築協定と緑化協定が締結され、次いで1991年に同B住宅地区においても両協定が締結された。しかしながらある意味開発業者から与えられた建築協

定や緑化協定に対し、建築協定や緑化協定の実際の運用にあたり具体的な事項や予想される問題について協議が行われ、その運用指針が制定された。

その後も協定運営委員会のまちなみを維持する活動が継続された結果、1997年（平成9年）1月第10回福岡市都市景観賞を受賞することができた。

当初、町内と西側の室見側との間には都市高速道路のランプが計画されていたが西方に延伸されたため、その跡地の利用が福岡市土木局、福岡北九州高速道路公社と協議された。この10年に及ぶ長い交渉には町内会有志による町づくりの会が窓口として大いに活躍し、日本庭園の建設を獲得することが出来た。京都の植藤（ウエトウ）造園（佐野藤右衛門）設計、監理で福岡の安藤造園施工によってプロムナードを持つ見事な日本庭園が2001年（平成13年）10月に完成した。

一方1999年（平成11年）街路樹の根元を汚染していたペットの落とし物に困っていた町民の一人が、その場所に花を植えたところペットが寄りつかなくなった。これを契機に花作りが町内の有志で始められ、街路樹の根元に植栽する花壇作りが98カ所まで拡大していった。1995年（平成7年）の第18回夏季ユニバシアード福岡大会で使用された大型ポット30個の提供も受けて更に花壇作りが拡大していき、2001年（平成13年）福岡市の花いっぱい美しい街並推進事業助成金を受けて（平成15年にも）さらに一層町内全体で花壇作りに取り組むことになった。この助成金によって街路樹の根元を煉瓦で囲む事ができ、花壇作りの用具を揃えることが出来た。また2000年（平成12年）には新宮湊坂住宅街を38名で見学してまちなみ作りを学ぶ事ができたが、これらの花作りの活動は町民間のコミュニケーション醸成にも大いに役立っていると思われる。こうして花と緑の豊かな居住環境づくりに努力した結果、2001年（平成13年）には福岡市森と緑のまちづくり協会による“緑のまちづくり特別賞”を受賞し、NHK福岡放送局で紹介放映された。その後も町内挙げての花づくり活動が続けられた結果、2007年（平成19年）に再び花と緑に関する市長表彰を受けた。

しかし2005年（平成17年）に発生した福岡西方沖地震で、当地も液状化現象が見られ若干の被害がでた。思いがけない災害であったが町内に防災意識が芽生え、校区全体でも防災対策が検討されるようになった。そこで2007年（平成19年）9月、町内で防災アンケートを実施した所、最も要求が高かったのはアナログ的な連絡手段であった。そこで未だ設置されていなかった町内掲示板を2年計画で資金準備する事として、ようやく2009年（平成21年）12月太陽光発電付きのLED掲示板が完成した。

これらのまち作りの活動の成果かもしれないが、平成22年5月5日の日経新聞紙上で住宅地の基準地価格が上昇基調にある地区として紹介された。事実福岡地区の住宅地として最高の土地評価が続いている。